

北区 生物マップ

王子エリア



北区の公園で拾えるドングリ

- スダジイ** *Castanopsis cuspidata var. sieboldii* 暖地に自生する常緑樹。北区では崖地の林で見られるほか、公園や庭園、社寺によく植えられています。ドングリは長さ1.2~2.0cmの細長い卵型。鱗のような殻斗(かくと・帽子と呼ばれる部分)に包まれています。
- マテバシイ** *Lithocarpus edulis* 暖地の海岸近くに自生する常緑樹。北区では公園などによく植えられています。ドングリは長さ1.5~2.5cmの長円形。すんぐりとした大きなドングリです。
- シラカシ** *Quercus myrsinaefolia* 暖地に自生する常緑樹。北区では崖地の林で見られるほか、公園や庭園、校庭などによく植えられています。ドングリは長さ1.5~1.8cmの卵型。殻斗は輪を積んだような形をしています。
- ウバメガシ** *Quercus phillyraeoides* 暖地の海岸近くに自生する常緑樹。北区では生垣などに使われていますが、あまり多くはありません。ドングリは長さ約2cmの円形。先が尖り気味なのが特徴です。
- コナラ** *Quercus serrata* 雑木林でよく見られる落葉樹。北区では、公園や団地の植栽地によく植えられています。ドングリは長さ1.6~2.2cmの長円形。殻斗には細かい鱗片がびっしりと並んでいます。
- クヌギ** *Quercus acutissima* 雑木林でよく見られる落葉樹。やや湿った場所を好みます。北区では、公園や団地の植栽地に植えられています。崖地の林でも見られます。ドングリは長さ2~2.3cmの球形。殻斗はトゲ状です。

発行 東京都北区 東京都北区王子本町1-15-22
生活環境部環境課 Tel.03-3908-8618
H24.3発行 刊行物登録番号 23-3-038

王子エリアでみられる 主な植物

イチヨウ (イチヨウ科)



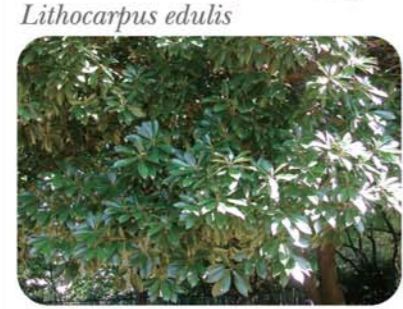
Ginkgo biloba
高さ45mくらいになる落葉高木。社寺の境内などによく植えられています。中国原産といわれています。北区でも各地の公園や社寺に植えられ、王子神社のものは東京都の天然記念物に指定されています。

スダジイ (ブナ科)



Castanopsis cuspidata var. sieboldii
暖地に自生する常緑高木。北区では社寺や公園によく植えられています。飛鳥山公園や名主の滝公園などの崖地では、まとまった林が見られます。深緑色の葉をびっしりとつけ、5~6月に強い匂いのある花をつけます。

マテバシイ (ブナ科)



Lithocarpus edulis
暖地の海岸近くに自生する常緑高木。公園のほか、工場や公共施設の植栽地にもよく植えられています。樹高は15m以上に成り、革質で円形の大きな葉をつけます。堅果(ドングリ)も大型です。

エノキ (ニレ科)



Celtis sinensis var. japonica
やや湿ったところを好む落葉高木。高さは20mを超えます。北区では崖地の林などに自生していますが、公園にもよく植えられています。かつて、一里塚に目印として植えられました。西ヶ原の一里塚でも見ることができま

ケヤキ (ニレ科)



Zelkova serrata
やや湿ったところを好む落葉高木。ほうき状の樹形が見た目に美しく、飛鳥山公園や清水坂公園など、公園によく植えられています。古い屋敷林でもよく見られます。葉は卵型で表面がざらつき、縁には鋸歯があります。

アジサイ (ユキノシタ科)



Hydrangea macrophylla
暖地の海岸沿いに自生するガクアジサイから改良されたものです。近年は、海外で改良されたセイヨウアジサイが逆輸入されています。公園や庭によく植えられ、北区では飛鳥山公園の植栽が有名です。

ソメイヨシノ (バラ科)



Prunus x yedoensis
よく知られているサクラの園芸品種で、エドヒガンとオオシマザクラの雑種といわれています。北区では、飛鳥山公園や石神井川沿いなどに多数植えられています。葉柄や花柄に毛があるのが特徴です。

サトザクラ (バラ科)



Prunus lannesiana
サクラは200種以上の園芸品種が知られており、これらを総称してサトザクラと呼んでいます。飛鳥山公園には写真のカンザン(関山)のほかウコン(鬱金)やイチヨウ(一葉)など、さまざまな品種が植えられています。

イロハモミジ (カエデ科)



Acer palmatum
低山地によく見られる落葉高木。秋の紅葉が美しい、モミジの仲間の代表的な種類です。石神井川はかつて、モミジの名所として有名でした。現在も川沿いや、紅葉橋付近の街路樹として植えられています。

ムラサキシキブ (クマツヅラ科)



Callicarpa japonica
低山から丘陵地に見られる落葉低木。高さ2~3mになります。北区では崖地の林などに自生していますが、秋に紫色に熟する実が美しく、公園によく植えられています。近緑種のコムラサキも、公園や庭によく植えられます。

ヒヨドリジョウゴ (ナス科)



Solanum lyratum
低山から丘陵地に生育するつる性の多年草。北区では崖地の林でも見られますが、公園などの植栽地で、他の植物によくからみついていきます。8~9月に白い花をつけ、実は秋の終わりにも赤く熟し、目立ちます。

サンゴジュ (スイカズラ科)



Viburnum odoratissimum var. awabuki
暖地の海岸近くに自生する常緑高木。公園のほか、工場や公共施設の植栽地によく植えられています。6月に白い花を多数つけ、実が秋に熟します。赤い実がたくさんついた様子をサンゴに見立て、この名がつけました。

王子エリアでみられる 主な昆虫類

アキアカネ (トンボ科)



Sympetrum frequens
アコントポの中でも代表的な種類で、日本特産種です。平地では6月ごろに羽化して成虫になり、その後高い山へ移動して夏を過ごします。そして、秋になると山から下り、水田などに産卵します。

オンブバッタ (オンブバッタ科)



Atractomorpha lata
オスがメスの背に乗っていることが多い、小型のバッタです。主に草丈の低い草地に生息していますが、庭や花壇でも見られます。キクなどさまざまな植物の葉を食べます。成虫は年1回、夏から秋に出現します。

ミンミンゼミ (セミ科)



Oncotympana maculaticollis
「ミン、ミンミンミン」という大きな鳴き声でよく知られているゼミの代表種です。黒色の体には緑色の斑紋があります。7月中旬から9月にかけて、区内各地で声を聞くことができますが、最盛期は8月です。

ツツジガンバイ (ガンバイムシ科)



Stephanitis pyrioides
ステンドグラスのような翅が美しい、体長4mm程度の小さな昆虫です。様々なツツジ科植物につき、葉の裏から汁を吸います。特にサツキなどの園芸品種を好みます。北区では、各地の公園や庭先などでも見られます。

アカスジキンカメムシ (キンカメムシ科)



Poecilocoris levis
光沢のある金緑色に、赤色の筋のある美しいカメムシの仲間です。成虫は6月から9月に見られ、ミスキやコブシなどの葉や果実の汁を吸います。北区では、飛鳥山公園などの樹木が多い公園の林縁で見られます。

コムシジ (タテハチョウ科)



Nephitis sappho intermedia
よく翅を開いて止まります。平地から低山地に分布し、明るいうちの林縁環境を好みます。成虫は年に2~3回出現します。幼虫は、フジやハギ類などの葉を食べます。北区では、飛鳥山公園など樹木の多い公園で見られます。

アオスジアゲハ (アゲハチョウ科)



Graphium sarbedon nipponum
水色の太い帯が美しい、アゲハチョウの仲間です。成虫は年3回出現し、5月から9月頃に見られます。オスはよく湿地などに吸水性を集まります。幼虫は、タブノキやクスノキなどの葉を食べます。

クロアゲハ (アゲハチョウ科)



Papilio protenor demetrius
翅の黒いアゲハチョウの仲間です。後翅に尾状突起があります。成虫は年に3~4回出現します。幼虫は、サンショウやカラタチなどの藪垣種を含めたミカン類の葉を食べます。北区では、公園や庭先などでも見られます。

王子エリアでみられる 主な鳥類

カルガモ (カモ科)



Anas poecilorhyncha
全長60.5cm。全体に茶色の地味なカモですが、嘴の先が黄色いのが特徴です。北区では1年中見ることができます。石神井川や浮間公園などでは繁殖しており、香から夏にかけて、ヒナを見ることもできます。

オナガガモ (カモ科)



Anas acuta
全長はオス75cm、メス53cm。オスはチョコレート色の頭に白い頬、長い尾が特徴です。北区には冬鳥として、浮間公園や飛川、石神井川などに渡来します。音無もみじ緑地のワンドでは、間近に見ることができます。

キンクロハジロ (カモ科)



Aythya fuligula
全長はオス44cm、メス38cm。尾が短く丸っこい体型をしています。北区には冬鳥として10月頃渡来し、浮間公園や石神井川に渡来します。石神井川では、水に潜り、食べ物を探る様子を見ることができます。

ユリカモメ (カモメ科)



Larus ridibundus
全長は41cm。嘴と足の色が目立つカモメの仲間です。北区には冬鳥として、河川敷のような開けた場所を好みますが、公園や住宅地でも普通に見られます。羽色の配分や濃淡の個体差が大きい鳥です。

ハクセキレイ (セキレイ科)



Motacilla alba
全長21cm。尾が長く、黒・白・灰色のモノトーンの羽色の小鳥です。北区では1年中見ることができます。荒川や石神井川沿いなど、湿った場所を好みますが、校庭や駐車場など、開けた乾いた場所でも見られます。

ヒヨドリ (ヒヨドリ科)



Hypsipetes amaurotis
全長27.5cm。全身灰色で、「ピーヨ、ピーヨ」と大きな声で鳴きます。関東平野ではかつては冬鳥でしたが、今では1年中普通に見られます。昆虫を捕らえたり、様々な木の実を食べたりしています。

ジョウビタキ (ツグミ科)



Phoenicurus auroreus
全長14cm。翼に白い斑があることから「紋付鳥」ともいわれます。北区には冬鳥として渡来し、公園や住宅地で見られます。雪真はメスですが、オスは顔が黒く、頭が灰白色をしています。

ツグミ (ツグミ科)



Turdus naumanni
全長24cm。胸を張った姿勢のいい小鳥です。北区には冬鳥として渡来し、河川敷のような開けた場所を好みますが、公園や住宅地でも普通に見られます。羽色の配分や濃淡の個体差が大きい鳥です。

シジュウカラ (シジュウカラ科)



Parus major
全長14.5cm。嘴や頭は黒く、白い頬が目立ちます。北区では住宅地で、1年中見ることができます。オスは春に「ツツビー、ツツビー」と、通る声でさえずります。葉は樹木の洞に作りますが、巣箱も利用します。

カワラヒワ (カワラヒワ科)



Carduelis sinica
全長14.5cm。スズメくらいの大きさで、オリーブ色を帯びた褐色の小鳥です。北区では、公園や住宅地で見ることができます。街路樹に巣を作ることもありますが、秋から冬には河川敷などで、大きな群れを作ります。

スズメ (ハタオリドリ科)



Passer montanus
全長14.5cm。最も身近な小鳥ですが、よく見ると込み合った模様をしています。住宅地でも普通に見られ、屋根のすき間などに巣を作りますが、近年数を減らしているという調査結果が示され、話題になっています。

ムクドリ (ムクドリ科)



Sturnus cineraceus
全長24cm。灰褐色をした地味な鳥ですが、嘴と足のオレンジ色が目立ちます。北区では、住宅地で1年中見ることができます。家の戸袋に巣を作るともあります。秋冬には土手や芝生に群れて食べ物を探します。

ナミアゲハ (アゲハチョウ科)



Papilio xuthus
キアゲハとよく似ていますが、翅の地色がより薄い色をしています。成虫は年に4~5回出現します。幼虫は、藪垣種を含めた各種のミカン科植物の葉を食べます。北区では、公園や庭先などで普通に見られます。

ホシホウジャク (スズメガ科)



Macroglossum pyrrosticta
庭先や公園の花壇などでよく見られる、スズメガの仲間です。飛びながら、長い口を伸ばして花の蜜を吸います。胴体が大きく早く羽ばたいて、ハチのように見えます。幼虫は、ヘクソカズラの葉を食べます。

マメコガネ (コガネムシ科)



Popillia japonica
体長10mm程度の小型のコガネムシです。体には光沢があり、前翅は褐色です。成虫は5月から10月に出現し、マメ科やブドウ科などさまざまな植物の葉や花を食べます。北区では、荒川河川敷などで見られます。

ニホンミツバチ (ミツバチ科)



Apis cerana japonica
名前のよく知られたハチの仲間です。古くから、蜜の採取に用いられています。公園や庭に植えられた様々な花に集まります。体は全体に黒く、腹部に縞模様があります。樹洞などに巣を作ります。

王子エリアでみられる 主な爬虫類

クサガメ (イシガメ科)



Chinemys reevesii
浅い池沼や流れの緩い川に生息しています。甲羅は黒っぽく、3本のキール(隆起した線)があるのが特徴です。首に黄色い模様があります。北区では名主の滝公園などの公園の池や石神井川などで普通に見ることができます。

ミシシippアカミミガメ (ヌマガメ科)



Trachemys scripta elegans
アメリカ合衆国南部からメキシコ北東部が本来の分布域です。ミドリガメの名でペットとして飼われていたものが逃げたことがありました。北区では、名主の滝公園などの公園の池や石神井川で、普通に見ることができます。

ニホンヤモリ (ヤモリ科)



Gekko japonicus
指先に多数の細かな突起があり、先端が吸盤状になっているので、壁やガラス窓を登ることができ、夜間、電灯に集まる昆虫を捕らえにでることがあります。北区では、公園内の休憩施設などで見つかりました。

アオダイショウ (ナミヘビ科)



Elaphe climacophora
ヘビの中では最もよく知られた身近な種類です。家で見られることもありますが、全長は普通1~2mですが、3m近くになるものもいます。北区では、名主の滝公園や石神井川沿いの緑地で見つかりました。